

コロナ禍における合唱活動を考えるセミナー質問回答書

質問：行政は、ガイドラインに丸投げなので、そこをどのように克服して、第三段階に進めていけばよいのでしょうか？

回答：歌唱を伴う活動に関するガイドラインが、文部科学省や一般社団法人日本カラオケボックス協会連合会より発表されております。これらを参考にし、行政に対して歌唱を伴う市民活動に対する協議を依頼することが可能となります。協議を行うにあたっては、合唱団の目標設定を伝え、（例：少人数での合唱活動再開を目標）現時点で一番可能な合唱活動を共に検討することが互いの理解を得ることへと繋がります。（補足情報 をご参照下さい）（三道ひかり）

質問：クラシック音楽事業協会の指針や、クラシック音楽合唱連盟の指針は、どうしても「総論」的になり、安全側に寄った指針になるのは、仕方がないものと思う。しかしながら、各合唱団体それぞれの事情を考慮した行動を、各論的ボトムアップ的にとろうとしたとき、上記指針が、却って「足枷」になってしまわないでしょうか？そのような懸念にたいして、どのような行動がとれるでしょうか

回答：おっしゃる通り、ガイドラインに沿わない活動を行う場合足かせとなる可能性があります。地域ごとに事情が異なると思いますので、地域の事情や合唱活動への理解度に合わせ、合唱団側と観客・施設貸し出し側の安全性が確保された状態での合唱活動再開を最優先にすることが重要となります。（三道ひかり）

質問：保育・幼稚園や教育機関での集団での合唱、カラオケなどについては、ガイドラインがあるのでしょうか

回答：現在、歌唱に関わるガイドラインは文部科学省及び一般財団法人カラオケボックス協会から出ております。いずれの場合も空間の間隔を空け、人がいない方向に口をあける、マスクをした状態での歌唱が推奨されています。集団歌唱に特化したガイドラインは現時点では該当の教育機関や娯楽施設からは出ておりません。（補足情報 をご参照下さい）（三道ひかり）

質問：コロナ感染症の後遺症として肺胞のダメージによる息切れなどの報告がされています。リハビリテーション的見地から歌唱・合唱を新型コロナ後遺症に対する療法的活動として社会的に認知させていければ 「with コロナ」や「コロナ後」の状況下における合唱活動の存在意義のひとつとして新しい可能性が加えられないでしょうか。

回答：歌唱活動は呼吸器官機能向上として科学的に実証されており、国内外の病院や高齢者施設を始めとするリハビリテーション領域にて既に導入されております。そのため、おっしゃる通り健康活動としての歌唱活動の使用を広めることで、より一層合唱活動の存在意義が認知される可能性がございます。（三道ひかり）

質問：バッファーというものについて質問します。先ほどの話では、一人3㎡必要とのことでしたが、面積でなく、体積で考える概念は無いですか？会場によって天井の高さになり差がありますが、それは関係して来ないのでしょうか？

回答：バッファーは建築用語で“緩衝地帯”と呼ばれ、建築上余分な空間を示しております。ノルウェー音楽協議会のガイドラインでは集団活動を実施するにあたり、一人当たりの社会的距離に加えて空間確保に加えて“緩衝地帯”をとることが推奨されております。本ガイドライン内には面積での指針が示されており、天井の高さを含む体積に関する指針は示されていないため、関係しているかどうかはお答えしかねます。（三道ひかり）

質問：

換気のお話はマスクなしでの前提でしょうか？マスクをした上でのことになりますか？

回答：換気検証の内容は空間内の飛沫飛散に対する換気機能の比較実験を行ったものです。そのため、空間内の人の介在は含まれておりません。マスクをつけた状態でのソーシャルディスタンス（約2m）が推奨されます。（三道ひかり）

質問：パーテーションはエアロゾルに効果があるのでしょうか？

音大での運用はパーテーション+30分毎の換気を行っているという理解でよろしいでしょうか？

回答：音大での運用は、マスク、フェイスシールド必須、パーテーション+換気を標準としています。（本山秀毅）

質問：パーテーションの消毒、除菌はどの程度されていますか？

回答：レッスンごとに消毒をしています。（本山秀毅）

質問：楽器、特にピアノの鍵盤の消毒は？ピアノを傷める事につながることはありませんか？もしわかれば、お願い申し上げます。

回答：ピアノの消毒はアルコールはだめですが、次亜塩素酸水であれば鍵盤には問題がないと聞いています。（本山秀毅）

質問：大学合唱団で感染者を出してしまった場合、責任の所在はどこにあるのでしょうか。高校までと違って活動を監督する顧問の先生はいらっしゃいません。また、学生であるため、個人の責任であるとも言いきれませんが（保護者の存在）。私は団長を務めているのですが、団長が責任を負うことになるのでしょうか。もしそうだとすれば、私が団員の健康に対する責任を一手に引き受けることになるのでしょうか。

回答：難しい問題ですね。私も1つ大学の合唱団の音楽監督のような仕事をしていますが、サークルを取りまとめている大学の機関から、サークル活動に対する綿密な防止方策を提出する書類が届きました。

それをクリアしないとサークル活動は認めないと言う大学の方針が出ています。そうすることで大学側も責任を共有しようとしていると思います。大学合唱団の場合は、認可を受けている大学当局と研究しながらの活動再開が望ましいと思います。（本山秀毅）

質問：感染に対しての団員の温度差が大きい。軽く考えている人が練習再開を求める機運がなかなか抑えられなくなってきました。なにか良い方法をご存知であればご知見をいただきたい。

回答：三道さんがおっしゃっているように「何のための活動なのか」と言うところに立ち戻って議論が必要だと思います。不要不急に議論をもっていく必要はありませんが、その辺りはしっかりと合意を形成しておくことが必要だと思います。（本山秀毅）

質問：合唱連盟というような単位で、個別団体と公的機関の橋渡しをしながら、合唱という分野でトップダウンで「幹」となる指針を決めていただけるとありがたい。

回答：おっしゃる通りですが、団が抱えている事情はまさに千差万別です。意識にも大きな隔たりがあると思われます。「指針」は絶対に必要だと思いますが、それをどのように考えるかにも我々の見識が問われています。（本山秀毅）

質問：オーストリア合唱連盟？のガイドにも基本は自己責任と書いてあるようで、確かにその通りなのですが、日本の場合は頭で渡っていても、かかってしまうと他人の責任にしかたくなる国民性のところでは、ガイドの決め方も変わらざるを得ないと思います。

回答：全日本合唱連盟がどのようなガイドラインを出すか、我々も注視しています。皆さんが求められる「責任の所在」についてどのように述べているか、特に関心があります。しかし合唱団の中における「責任者」という存在は必要なのではないでしょうか。（本山秀毅）

質問：公民館などもお役所なので、お役所の対応になる（公的ガイドを守るのが彼らの役割なので）。一緒にやり方を考えるというスタンスでは動いてくれないのが一般的ではないでしょうか？

回答：確かにおっしゃる通り、そのような側面がある事は否めません。しかし既に再開に向けてホール側としっかりと強調している団体もあると聞いています。勉強会のようなものも開いているそうです。

このウェビナーにも多くのホール関係者が耳を傾けていたことを考えると、全く希望がないわけでもないでしょう。（本山秀毅）

質問：地域との連携を強調されていましたが、東京圏などの広域や地域ではなく特定の音楽ジャンルに特化した団体（古楽など）での取り組みはどのように考えられますか？

回答：おっしゃるような団体では、メンバーの意識が比較的統一しやすいようにも思います。少人数であることを前提に対策をとりながら再開することについては、一般のアマチュア合唱団とは一線を画す部分があるのではないのでしょうか。（本山秀毅）

質問：大学合唱団の指揮者です。今年 12 月に定期演奏会を控えています。そのような合唱団は他にも多いと思いますが、ハッキリ申し上げますと、演奏会は今年は辞中止した方が良いでしょうか。

回答：大学の合唱団で定期演奏会が中止になるという事態は、その歴史のタスキが途絶えると言う大きな意味があるでしょう。たとえ満足なプログラムを組むことができなくても、小さな演奏会ででもつなぐことにも大きな意味があると思います。工夫をしてグループを開けて小アンサンブルで演奏会を構成するなど工夫を重ねていただきたいと思います。（本山秀毅）

質問：ワクチンができるまで合唱はすべきでない、という意見があります。どう思われますか？

回答：私はそうは思いません。最終的なゴールがそこにあると思います。それまでに再開に向けての様々な議論や試みが行われてしかるべきだと思います。（本山秀毅）

質問：練習についてはわかりました。演奏会が出来るのかの可能性、その時期をお願いします。

回答：演奏会と一言で言われましても、様々な形態、希望があると思います。皆さんの最小限の活動を集約する意味での演奏と、大々的に聴衆をお招きして大きな会場で開催するのとでは問題点が違うと思われま。

演奏会に必須の「お客様」の扱いについても様々な議論がなされています。座席を間引いての開催が適当なものなのかということも検討していただきたい。（本山秀毅）

質問：様々な合唱活動における感染対策に関するの情報提供、本当にありがとうございます。お話を聞いていて感じたのは、そもそも合唱とは楽しいという感情が大切な活動だと思います。しかし、このような対策をしながら合唱をすることに果たして私たちが楽しさを感じることはできるのでしょうか。元々は楽しさを感じるための活動が、ストレスを感じるものになってはいけないと思いました。そのような場合、私たち自身がまず with コロナを受容することが必要になるのかなと。しかしアンケート結果からはやはりコロナに対するネガティブな感情を多く感じました。その辺り、どのようにお考えですか？ご意見伺えたらと思います。

回答：私も同様に感じています。様々な対策を行いながらの合唱活動が、本来の意義を伴っているのかどうか自問するところです。しかしそこに一步を踏み出す事をしない限り始まりはありません。

しばらくはコロナを受容しながら考えることが必要だと思います。（本山秀毅）

質問：マスクをして歌う、ということがどうしても想像ができません。仕事で打合せや電話での会話だけでも息が苦しくなる感じがあるのですが、マスクをした状態で、これまでのような「発声」ができるのでしょうか？また、距離が離れることで、「隣の声」が聞こえない（聞こえにくい）状況が容易に想像できるのですが、それは果たして「合唱」なのか・・・疑問に思うのですが、どういうことを心がければ少しでも有意義な練習ができるのでしょうか？

回答：限られた状況の中で、たとえ制限された練習でも、感染症対策と共にできることを考えなければなりません。まず、以前と全く同じような効果や内容を求めないところから始める必要があるでしょう。例えばハミングによる練習など、どのような音楽的な効果があるのかと言うことについて、賢明な判断をしなければなりません。「こうあるべき」「元あった姿を取り戻す」ことに焦りを見せるのが1番危険なことかもしれません。
マスクをしながら歌うことについても、もっと合った効果を求めなければある程度までは可能だと感じています。（本山秀毅）

質問：コロナ感染症の後遺症として肺胞のダメージによる息切れなどの報告がされています。リハビリテーション的見地から歌唱・合唱を新型コロナ後遺症に対する療法的活動として社会的に認知させていければ 「with コロナ」や「コロナ後」の状況下における合唱活動の存在意義のひとつとして新しい可能性が加えられないでしょうか。

回答：歌唱活動は呼吸器官機能向上として科学的に実証されており、国内外の病院や高齢者施設を始めとするリハビリテーション領域にて既に導入されています。そのため、おっしゃる通り健康活動としての歌唱活動の使用を広めることで、より一層合唱活動の存在意義が認知される可能性がございます。（本山秀毅）

補足情報

換気に関する基本的考え方

- 換気 2 回が推奨

(厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000618969.pdf>)

(* 換気回数とは、部屋の空気が全て外気と入れ替わる回数)

< 日本建築学会換気関連 >

- 感染制御について Q&A :

<https://www.aij.or.jp/jpn/databox/2020/200330.pdf>

- COVID-19 に関連した内容 : https://www.aij.or.jp/covid19_info.html

次亜塩素酸に関する情報：

https://news.yahoo.co.jp/byline/kutsunasatoshi/20200530-00180432/?fbclid=IwAR0wCUpiW_QXyvUr5a-syVHE3CAP2Lvrty8438rjia_FoY7GNFwO0iuyUI

厚生労働省の新型コロナウイルス関連情報：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

換気関連の情報：<https://www.aij.or.jp/jpn/databox/2020/200323.pdf>

歌唱に関するガイドライン

A) 文部科学省：https://www.mext.go.jp/content/20200406-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf

B) 一般社団法人カラオケボックス協会：<https://www.karaoke.or.jp/img/guideline.pdf>

A) 文部科学省

新型コロナウイルス感染症に対応した小学校，中学校，高等学校 及び特別支援学校等における教育活動の再開等に関する Q & A の送付について（4月6日時点）

https://www.mext.go.jp/content/20200406-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf

【音楽科において、狭い空間や密閉状態での歌唱指導や身体の接触を伴う活動について、年間指導計画の中で指導の順序を変更することや、歌う際にはできる限り一人一人の間隔を空け、人がいる方向に口が向かないようすること】

B) 一般財団法人日本カラオケボックス協会連合会

カラオケボックス等の歌唱を伴う飲食の場における 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン <https://www.karaoke.or.jp/img/guideline.pdf>

飛沫感染のリスク評価

- 歌唱者間の距離が十分に確保できるよう、各室における入場人数の制限を行う。
- また、室内の適切な換気を行う。利用者毎の利用を管理する。また、マスク又は目や顔を覆う防護具を装着しての歌唱を促す。
- 室内の定員が通常の半数以下になるよう入場制限し、積極的に感染リスクを減らす。
- 室内の座席間隔を、できるだけ2mを目安に（最低1m）以上設け、正面に座れないよう、又は、横並びで座るよう椅子を配置する。
- （エアコン以外の）室内吸排気設備を常時稼働させる。
- 室内清掃中は、必ずドアを開放し、換気を行う。